

(1) 猪川地区の被災状況

大船渡市猪川町は、大船渡湾から 2.5 キロメートルほど北上し、東西に開けて位置しています。14 地区、1,842 世帯を、民生委員・児童委員 7 名、主任児童委員 2 名の 9 名で担当しています。

震災時には津波の被害はありませんでしたが、家屋の屋根瓦などに大きな被害がありました。地震直後は各委員とは通信の不通により連絡がとれませんでした。2 日後に確認がとれ、公民館組織・自主防災組織などと連携し、それぞれの地域内で要援護者の安否確認、被害状況把握、炊き出しなどを行なっていることがわかりました。

(2) 現状と活動

震災発生から約 4 か月経過した平成 23 年 7 月には、地区内に応急仮設住宅が 8 か所 434 世帯、みなし仮設住宅が 56 世帯、在宅（間借り等）が 7 世帯、計 497 世帯が生活していました。とくに応急仮設住宅の大団地として 1 か所に 308 世帯が、また小学校校庭に 50 世帯が入居しました。

この大きな団地が地区内にあるので、当初は見守りなどが大変かと思っておりましたが、大船渡市社会福祉協議会の生活支援相談員と連絡を取りながら、被災者宅の見回りや相談時などに対応し、現在も引き続き高齢者のひとり暮らし・日中ひとり暮らし・障がい者などへの見守り活動をしています。

小学校校庭にも応急仮設住宅があるため、児童の運動場がなく、狭小な空き地で体育の授業を受けたり、遊んでいる様子が伺われます。育ち盛り子どもたちのために、早急に環境改善を図ってほしいと思います。

震災発生から 3 年を迎え、自力で生活を再建し、引っ越しした世帯もあり、応急仮設住宅にも空きが見え、地区内には空き地や農地に新築住宅が見られるようになりました。なお、災害公営住宅（3 階建て 53 戸）も建設予定になっていますが、その完成は一年後です。



小学校校庭の応急仮設住宅と残った狭小な校庭で遊ぶ児童たち



地区内に建設される災害公営住宅予定地、完成は一年後に

(3) 終わりに

災害時には、民生委員・児童委員一人では、要援護者の安否確認に時間がかかります。日頃から地域公民館、自主防災組織、地域住民などが連携を図り、災害に備えることが必要だと思います。

最後になりましたが、震災後は全民児連を通じ、全国の民生委員・児童委員、主任児童委員の皆様からご支援をいただき、大変ありがたく、感謝申し上げます。